

また仲間が殺された

すでに41人もが犠牲に...
何やってるんだ!
組合指導部は...

日刊 労働千葉

86. 2. 27
No. 2178

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三六(公衆)〇四七(22)七〇七

俺たちはボロ切れや奴隷じゃないゾ!
生きるとため今こそストを闘おう

2月21日、東京と岡山で、二名の国鉄労働者が自殺に追いやられた。「分割・民営化」攻撃の開始以来、四十一人目の犠牲者だ。問答無用の十万人首切り、権利も生活も奪われ、ムシケラのごとく扱われる。労働革マルに至っては、組合が労働者を職場から追いたてる。まさに、人が人として働き、主張することを否定されたなかでの事態に心の底からの怒りをおさえることができない。われわれは、こうした事態にがまんできないがゆえに、第一波・第二波のストライキに起った。中曽根・杉浦、そして労働革マルへのにくしみをたぎらせ、徹底的に闘いぬき、全国鉄労働者の総決起をつくりだそう。

殺したのは革マル松崎だ

二十一日、岡山県内の自宅で猟銃自殺した岡山機関区所属の労働組合員(三六才電機士)は、労働革マルの方針をおしつけられ、今年一月十五日から二年間の復職前提の休職に入っていた。彼を殺したのは、労働革マル・松崎だ。

松崎は、革マル分子の生き残りのため組合員を三本柱にかりたて、合理化に率先協力してきたばかりか、労働強化の下で組合員が事故をおこしたり、いや気がさし「不祥事」をおこすや、「組合とは無縁」と切り捨てるなど、まさに、国鉄労働者を「去るも地獄、残るも地獄」へと叩きこんできた張本人だ。

自らの組合員を死に追いやるばかりか、労働千葉・国労の解体に血道をあげ、ついに鉄労との共闘を打ち出し、名実ともに労働者の階級敵としての正体を現わにした労働革マルを絶対に許すな。

怒りの決起で 必ずこの責任を取らせよう

一方、新宿駅営業管理係の国労組合員(五九才)を自殺に追いこんだのは、当局のしつような「かたたき」退職強要」であった。

一九四四年国鉄入社、四八年から三八年間も新宿駅で働いてきた氏は、全く理不尽な「分割・民営化」、十万人の首切りに反対し、当局の退職強要に抵抗していた。当然のことである。

一体国鉄当局に、労働者の生活を人生設計をメチャクチャにする権利があるとでもいうのか。この責任を誰が取るのか。われわれは、本当に怒りとにくしみでいっぱいである。

同時に、この労働者の切実な声やこまで追いかまれた労働者の気持ちをくみあげ、守れなかつ

た国労指導部に対しても重大な疑念を禁じえない。

国労指導部の屈服をのりこえ 総反撃に起とう

「61・3」で三万人、「61・11」で八万人もの大要員削減、首切り合理化が行われようとしており、現場では、具体的に追い出し、首切り要員の選別が行われ、労働者が苦悩と苦闘の渦の中にある今、何故、起って闘おうとしないのか。労働千葉のストに対し、スト破りをさせるとは何事か。本当に、怒りとくやしきでいっぱいである。

われわれは、第一波・第二波のストを闘いぬいた誇りと確信にかけ、かかる国労指導部の屈服を許さず、決起を開始した全国の仲間と共に、必ず「分割・民営化」十万人首切り粉碎をかちとるわれわれが闘い、勝利しなければ、この四十一名の労働者は決して浮かばれない。

中曽根・杉浦・松崎への怒りをたぎらせ、全国鉄労働者の総決起へ向け、闘って闘って闘いぬこう。

呼び出し直後に自殺



仕事一筋の出札係 ロッカーに「退職強要反対」

岡山では休職の労働者

新宿駅
岡山では休職の労働者

国鉄 分割・民営化の嵐のなか...